

学校法人 コミュニケーションアート 神戸・甲陽音楽&ダンス専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2021年6月14日実施】

2020年度自己点検自己評価(2020年4月1日～2021年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2 学校の特色は何か 1-3 学校の将来構想を抱いているか	3	学校法人コミュニケーションアート 神戸・甲陽音楽&ダンス専門学校は、学校法人滋慶学園グループに属し、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。 「3つの建学の理念」(「実学教育」「人間教育」「国際教育」)を実践し、「4つの信頼」 ①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生と保護者の信頼 ④地域の信頼 を得られるように学校運営をしている。 建学の理念に基づき、神戸・甲陽音楽&ダンス専門学校は、『産学連携教育』を通して、エンターテインメント業界で即戦力となる人材を育成し、また海外の提携校との取り組みなど、世界を舞台に活躍できる即戦力育成を行うことを目的として学校運営をしている。	「学校法人滋慶学園グループ」 昭和51年の創立以来、「業界に直結した職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、常に揺るがない建学時からの価値観の源泉である「3つの建学の理念」と「4つの信頼」を実践している。 医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡・米国まで81校を有する。 「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。 「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、プロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。 「国際教育」 日本人としてのアイデンティティを明確に持ち、価値観や文化の違いを尊重して、より広い視野、高い視点でモノを捉える国際的感性を養う。	3・2・1	
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか 2-5 事業計画は定められているか 2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-8 意思決定システムは確立されているか 2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	諸環境の変化に対応できるように、運営方針を事業計画にまとめている。滋慶学園グループとしては、長期・中期・短期展望で毎年事業計画を作成している。それに基づき、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するがそのものとなるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、この事業計画書こそが本校における運営の核となるものである。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。それを受けて、毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も行っている。 事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等について明確に示されている。運営組織は、事業計画に示された組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。 学校が重要視していることとして、滋慶学園グループの事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修や会議を通して目的と目標達成に向かう。「人が成長しない組織に発展はない」との考えのもと、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、すべての人がキーパーソンとして、各種研修や会議、ミーティングなども通して考え方や方針を理解・共有して実行している。 また、滋慶学園グループ共通システムである専門学校基幹業務システム(ASシステム)により管理・運営している。学生情報や総務管理、財務情報などの管理を行っている。	各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署が同じ方針・考え方を共有のもと作成され徹底している。 学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。	3・2・1	

<p>3 教育活動</p> <p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>3</p>	<p>職業人教育を「専門職業教育」と「キャリア教育」に大別しており、そのどちらにおいても共通しているのは、業界との密接な関係、関連である。「業界が求める人材を業界と共に育成する」ことが大テーマであり、それに沿った教育目標、方針を正しく方向づけることが点検ポイントとなる。具体的には独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となる人材を育成、輩出することを可能としている。</p> <p>教育目標達成のためカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、常に教育部会等で討議、見直し等を行っている。また、それは学科(専攻)専門スキルに関わるもののみならず、職業人・社会的自立を目指した、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。</p>	<p>教職員の目標として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門就職率100%(就職者/専門分野就職者) 2. 退学率0%(入学者は全員卒業してもらう)を掲げ、その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。 <p>第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。</p> <p>第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システム「産学連携教育システム」である。これには、次の6つが挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①企業プロジェクト②Wメジャー・カリキュラム③業界研修 ④海外美学研修⑤特別ゼミ⑥キャリアセンター・デビューセンターである。 <p>また、教育システムのさらなる開発のため、滋慶COMグループの音楽系全校から構成する「パフォーマンスアート教育部会」を設置し、システムの共有化、レベル向上を図っている。</p> <p>主な研究内容は、①教育指導法・技法の開発②カリキュラム検討③生涯教育プログラム④教職員研修⑤国際教育システム開発⑥イベント・卒業研究の運営等である。</p>	<p>3・2・1</p>	
<p>4 教育成果</p> <p>4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>3</p>	<p>教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、専門就職率(就職者/専門分野就職者)100%、退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>就職では、次年度に初の卒業生を出すことになり、就職率(就職者/就職希望者)100%を達成すべく学生の就職活動の支援をおこなっているが、専門就職率、就職対象率も高い水準で推移することを課題として取り組んでいる。</p> <p>退学率では、今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任・副担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々を実施し、退学率0%達成に向け、努力を惜むことはない。</p>	<p>教育成果の1つである就職は、100%を達成すべく、努力を続けている。また、できるだけ多くの学生に夢をかなえて就職するよう、就職対象者率の向上も大きな課題である。</p> <p>学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。</p> <p>退学率では、十分なカウンセリングを経て、学内にて転科・転専攻できる体制作り、また学園全体として進路変更委員会を設置している。</p> <p>姉妹校と協同し、転校プログラムをシステム化するなど、これまで以上にその問題に対応できるシステムを整え、1人の退学者も出さない学校になるべく、努力をおこなっている。</p> <p>今後は、最終目標である0%に向け、さらなる努力を重ねていく。</p>	<p>3・2・1</p>	

<p>5 学生支援</p> <p>5-23 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-24 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>5-29 保護者と適切に連携しているか</p> <p>5-30 卒業生への支援体制はあるか</p>	<p>2</p>	<p>本校では、個々学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。</p> <p>しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。</p> <p>学生支援には、①就職②学費③学生生活④健康などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、クラス担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。</p> <p>②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。</p> <p>③ 学生生活については、クラス担任制により行うが、それ以外にもSSC(チュードント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を設置し、専門カウンセラーが支援を担当している。</p> <p>④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニックが担当し、在学中の健康管理を支援している。</p>	<p>①「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。</p> <p>キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」のコーディネートから、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」などのシステムも構築し、迅速な対応ができるように支援している。</p> <p>②「学費」については、分納等に関する相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。</p> <p>③即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。また保護者を対象とした保護者会の実施し、必要に応じて保護者の方との連絡を密にとり、学生サポートを学校と保護者とでタッグと組み実施している。</p>	<p>3・2・1</p>	
<p>6 教育環境</p> <p>6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-33 防災に対する体制は整備されているか</p>	<p>2</p>	<p>施設・設備、機材等は業界で即戦力となり得る人材を育成するためのものであり、最新・最良のものを完備する考えで運営しており、教育上、充分な対応ができていくと考える。ハード面としては、開校に伴い新校舎を設立し、新しい環境で授業を行っている。</p>	<p>オンリーワンを目指す本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、それゆえ、最新・最良のものを整備している。</p> <p>毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行えているが、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が一丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。</p>	<p>3・2・1</p>	

<p>7 学生の募集と受け入れ</p> <p>7-34 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>7-37 学納金は妥当なものとなっているか</p>	<p>3</p>	<p>本校は、兵庫県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集方法、募集内容(AO入学を含む)を遵守している。 また過大・過剰な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。 さらに、広告倫理委員会を設置し、募集活動の適切さをチェックしている。 広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内パンフレット、体験入学や学校説明会への参加や学校ホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容・就職実績・デビュー実績等を理解いただくように努めている。 入学選考に関しては、願書受付日及び締切日、選考日を学生募集要項に明示し、設定日に実施している。選考後は、「入学選考会議」により、担当者の所見を基に、可否を決定する。なお、入学選考は、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準は、「目的意識」である。目指す業界への職業感や具体的な目標を確認すると共に、本校の教育プログラム及びカリキュラムにおいて学校が提供できることを説明している。入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。学費や諸費用、教本・教材等の見直しを毎年行っており、無駄な支出をチェックしている。 保護者への納入金額の提示についても、入学前の段階において、年間の必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大・過剰な広告を一切排除し、公明正大な学生募集に配慮している。 広報活動では「学校の特色を他校にはない強みを理解してもらう」ことを強化している。 本校は専門職への就職やデビューを達成することを第一目標としているため、入学前に職業イメージが明確になっているかが大切と考え、体験入学や学校説明会への複数回参加を促し、職業や学校について、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。 教育成果として、専門的な職業への就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、事務局長、広報責任者等が常にチェックしている。</p>	<p>3・2・1</p>
<p>8 財務</p> <p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-40 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-41 財務情報公開の体制整備はできているか</p>	<p>3</p>	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。 毎年、次年度の事業計画を作成し、5か年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。</p>	<p>より現実即した予算計画を立てるため、予算を短期(1年)・中長期(2年～5年)に分け、2つの観点から予算編成を行っており、事業計画には両方を盛り込み作成する。 短期的な予算編成は当年度の実績を基に次年度業務計画を加味して行なわれる。中長期的な予算編成は大規模な計画(新学科申請、学納金額変更、増改築等の設備支出など)を視野に入れたうえで、社会・経済・業界の情勢を読み行なわれる。作成した予算に現実の予算との差異が生じた場合、短期の予算については年度内に修正予算を組み、中長期の予算においては毎年編成しなおすことになっている。四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば、修正予算案を編成し、評議員会・理事会の承認を得る。 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、学園本部がチェック・修正を行ない最終的に評議員会・理事会が承認する体制を整えている。 作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係の開覧に供することとなる。</p>	<p>3・2・1</p>

<p>9 法令等の遵守</p> <p>9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</p> <p>9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</p> <p>9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</p> <p>9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか</p>	<p>3</p>	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次ぎの各調査等においてチェックできるようにしている。</p> <p>①学校法人調査 ②自己点検・自己評価③学校基礎調査④専修学校各種学校調査等である。また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理士システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ) ⑥勤怠管理システム(滋慶学園グループ) 滋慶学園グループ、COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようにしている。法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。</p>	<p>すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。</p> <p>方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることとした。</p> <p>委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。 委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。</p> <p>主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の予防策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。</p>	<p>3・2・1</p>
<p>10 社会貢献</p> <p>10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか</p> <p>10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</p>	<p>3</p>	<p>本校には、「3つの教育理念」(「実学教育」「人間教育」「国際教育」)を実践し、「4つの信頼」(①学生と保護者からの信頼、②高等学校からの信頼、③業界からの信頼、④地域からの信頼)を得られるように学校運営をしている。この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。例えば、業界企業や団体、あるいは中学校・高等学校等の教育機関とタイアップして行う、出張授業支援やクラブ活動支援、また、スタッフが高校へ向かいに行う特別講義等では、「高校の先生の信頼」に繋がっている。</p>	<p>本校では、教職員及び、学生たちが常に社会貢献を意識した活動を行っている。例えば①神戸市からの依頼では、ジャズビッグバンドの演奏をレコーディングし、三宮地下街のBGMとして流れている。②神戸市消防局からの依頼により、フジテレビとの企画で「はたらくるま4」の楽曲のリアレンジと歌のレコーディングを本校学生が務め、現在はYouTubeにて公開され、消防局の啓蒙の一助となっている。③次年度よりミュージカル「Hospital Of Miracle」を実施し、生きることの素晴らしさ、骨髄移植についてを、ミュージカルを通じて広く知ってもらおう活動を行なう予定であり、毎年募金活動し、骨髄移植推進財団と夏目雅子ひまわり基金に寄付をしていく。</p> <p>その活動が、「学生・保護者の信頼」、「高校の先生の信頼」、「業界の信頼」、「地域の信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりが、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。</p> <p>今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、音楽・エンターテインメントを通して地域貢献できるよう取り組んでいく。</p>	<p>3・2・1</p>